

アジア／太平洋諸島系住民のための
家庭内暴力（DV）リソース・プロジェクト（DVRP）
コミュニティ・アウェアネス・ツールキット

バージニア ワシントンDC メリーランド



暴力からの自由

DVRP 

(202) 833-2233
www.DVRP.org
info@dvrp.org

プロジェクトの紹介

アジア／太平洋諸島（A／P I）系住民向けドメスティック・バイオレンス・リソース・プロジェクト（DVRP）は、過去20年に渡り、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）や性暴力（セクシュアル・アソルト）の被害者のために尽力してきました。私達の使命は、被害者が虐待後の生活の立て直しが出来るように力づけながら、アジア／太平洋諸島（A／P I）系住民のコミュニティでの家庭内暴力や性暴力問題に取り組み、その防止および終焉を実現することです。DVRPは、ワシントンDCメトロエリアでの家庭内暴力と性暴力に関するサービスを文化・言語的に特化して提供している唯一の汎アジア組織です。DVRPのスタッフ、アドボケイト、およびボランティアは、中国語、ベトナム語、タガログ語、ウルドゥー語、ヒンドゥー語等の計20以上のアジア／太平洋諸国の言語に対応可能です。

被害者中心の被害者による運営

被害者中心とは一被害者の方に指定した場所に来てもらうのではなく、被害者の方のいらっしゃる場所まで伺います。DVRPの活動の根底にあるものは、被害者の方たちの経験、ニーズ、優先事項です。DVRPはまた、被害者により運営に関わっている組織であり、つらい経験を乗り越えた方が、スタッフ、役員、およびアドボケイトやボランティアとして活躍しています。

DVRPの**被害者サービス・プログラム（SSP）**は、家庭内暴力や性暴力のA／P I系被害者の方たちに直接サービスを提供します。常勤のケースマネージャーが、バイリンガルのアドボケイトの支援を受けながら、民族、宗教、性的指向等に関係なく、女性・男性にサービスを提供します。SSPサービスとして、安全計画、シェルターの情報提供や紹介、法的サービス、社会的サービス（食料、衣類、精神衛生、薬物乱用に関するサービス等）があります。

アウトリーチ・プログラムは、コミュニティ内で家庭内暴力や性暴力の認識を高めるためのものです。この目的を達成するため、健全な関係や同意の重要性に関する啓もう活動や、本サービスの存在を知ってもらえるようアウトリーチ資料を随所に配布するなどの活動を行っています。

トレーニング・技術支援プログラムでは、主要サービスの提供者やコミュニティの指導者との密な協力体制の下、家庭内暴力や性暴力のA／P I系被害者の方への対応強化を図っています。DVRPは、A／P I系被害者に対する適切な対応方法、文化的理解、DVスクリーニング、およびA／P I系コミュニティにおける難しい問題に特化したトレーニング等を提供します。

コミュニティ・アウェアネス・ツールキットの目的

2014年にDVRPが実施したA/P I系コミュニティのアウトリーチ評価により、DCのA/P I系コミュニティ（コミュニティの指導者やサービス提供者を含む）がコミュニティ内での家庭内暴力や性暴力について、より積極的な対応を望んでいることがわかりました。しかしながら、この評価の参加者の多くが、関連する問題に対して深く理解できていないとしています。さらにまた、必ず虐待のサインを特定できるか自信がないという回答も得られました。このコミュニティのアウトリーチ評価に鑑み、本ツールキットは以下の目標を達成するため作成されました。

- A/P I系組織とコミュニティのリーダーが家庭内暴力や性暴力のサイン（兆候）を効果的に認識できるようにする。
- DVRPへの紹介プロセスを確立して、家庭内暴力や性暴力に対するコミュニティとの協力体制を促進する。

最近では、家庭内暴力や性暴力の増加が全国的に広く認識されるようになっていています。これにより暴力に対するコミュニティのイニシアチブもこれまでになく活発化しています。しかしながら、ますます成長を続ける多様なA/P I系コミュニティでは、その意識が届かず、家庭内暴力や性暴力が表面化しない場合が多々あります。加害者が暴力行為を続ける間、被害者は沈黙し続けるのです。被害者や加害者が周りにいないため、こういった問題は自分には関係の無いものだと誤解している人が多く存在します。あるいは、たとえ暴力行為を認識していたとしても、プライベートに立ち入らないというスタンスを取ってしまう人もいるでしょう。しかし、家庭内暴力や性暴力は私達の一人ひとりに影響を及ぼすのです。年齢、性別、性的指向を問わず、私達は皆、暴力の被害者と加害者を知っています。

変化への第一歩を踏み出すために、コミュニティ内で暴力を存続させる根本的な要因を取り除く必要があります。最も一般的な因子として、以下のものが挙げられます。

- **プライバシー**：昔から、多くのA/P I系コミュニティ住民は、家族の問題を公に話したりするものではないと信じています。家庭内で起きていることの重篤性に関わらずプライバシーを守るべきという概念は、家庭外からの介入または支援を阻止し、虐待の継続を可能にします。
- **タブー**：A/P I系コミュニティの住民の中には、性行為について話すことが不適切であると感じる人もいます。その結果、性に関する話題が禁止されます。性について考えることを拒絶した集団の中では、その沈黙の裏で性暴力が蔓延してしまうこととなります。
- **恥**：家族の誇りは、A/P I系コミュニティで重要視されています。多くの人が、家族の恥となるものを避け、その誇りを守るためにどのようなことでもします。残念ながら、家族の誇りを被害者の幸福や安全よりも優先させると、被害者は沈黙を余儀なくされ、それが生命の危険につながることもあります。
- **被害者への叱責**：多くのA/P I系文化では、家長やコミュニティ住民が、発生した事件についてその被害者を責めるということがよくあります。被害者に対し、暴力行為

を招くような服装、行動、言動をしていなかったか詰問します。被害者のみに注目して考えることで、加害者をその行為に対する責任から解放することになるのです。

家庭内暴力や性暴力の根本的要因を認識する人間が増えれば増えるほど、このような暴力に対するコミュニティの沈黙を破ることが容易になります。家庭内暴力や性暴力を許容する考えや慣習に挑むことができるのです。被害者たちに手を差し伸べる社会が確立され、被害者がたった一人で自分を責め続けるということがなくなります。家庭内暴力や性暴力のない世界を作ることができるようになるのです。

家庭内暴力のサインの認識

家庭内暴力に関するDVRPの定義は、交際相手、配偶者、または親戚に対して力と支配を得るために用いられる一連の虐待行為です。単独の出来事ではなく、言葉、感情、心理、性、経済、精神、身体的な形の虐待を含みます。コミュニティのリーダーとして、家庭内暴力のサインを認識し、安全で適切なタイミングで支援を提供することは何よりも重要です。

アジア／太平洋諸国系のコミュニティでは、家庭内暴力が身体的虐待のみであると一般に信じられています。あざ、切り傷、骨折は、明白な虐待のサインですが、加害者による虐待方法は身体的な行為のみに限定されるものではありません。ここで、人が他人を力で支配するいくつかの例を示します。

- **経済的**：家計の支配／凍結、パートナーに仕事をさせない／続けさせない。
- **感情／心理的**：中傷する、責める、恥をかかせる、根拠なく嫉妬する、別離や自殺をほのめかす、パートナーを友人・家族から孤立させる。
- **性的**：パートナーにアダルト動画等を見ることを強要する、パートナーに性行為を強要する。
- **精神的**：礼拝等の参加を許可しない、あるいは強要する、聖句や聖書の一節等を用いて罪悪感をあおる、被害者についての噂を礼拝所等で広める。

家庭内暴力の状況は、各個人がおかれた状況により様々です。加害者が、上記とは異なる方法を思いつくこともあります。しかし、周囲が被害者への対応方法を学習し、傍観者、サービス提供者、またはコミュニティのリーダーとして、被害者およびその家族（子どもを含む）の安全や将来を決める手助けが出来るのです。

傍観者の関与

傍観者とは、暴力行為の可能性がある状況を見たり聞いたりしたがどうすべきか分からなかったり、介入することを恐れたり、誰かが先に行動するのを待つ人達です。私達は皆傍観者です。あなた自身、傍観者なのです！コミュニティのリーダーや、仕事の同僚、介護者、または赤の他人であれ、以下を実施することで家庭内暴力や性暴力を終わらせる手助けができるのです。

- コミュニティにおける家庭内暴力や性暴力がどのようなものか（即ち、サイン）についてもっと知る。
- 自分の体験を語る被害者の声に耳を傾け、批判や軽蔑などせずに支援する。
- 躊躇せずに声をあげ、コミュニティ内の加害者の責任を追及する。
- 3つのDを使う（「グリーン・ドット・イニシアチブ」より）
 - **D i r e c t**（ダイレクト）：状況に直接立ち向かう。ただし、自分の安全を第一に考えること。
 - **D i s t r a c t**（ディストラクト）：注意をそらして、状況を中断また変化させる。
 - **D e l e g a t e**（ディリゲート）：暴力をより効果的に止めさせることができる人物に助けを求める。
- 誰かに危害が及びそうな場合、警察に連絡する。
- 仲間、友人、家族の間で暴力に対する認識を高める。

被害者と関わる上での指針

- 被害者が望むこと、必要なこと、すべきことを決めつけない。
- 自分が抱える精神的負担、価値観、優先事項を理解し、それらを被害者に押し付けない。
- 同じ言語を話したり、同じコミュニティ出身というだけで、家庭内暴力や性暴力についての相談にのることができるわけではない。
- リソースがないと決めつける前に確認する（例：ベトナム人コミュニティにおける被害者のためのカウンセリング・サービス）。
- 疑問点を明らかにするような質問をする。
- 被害者の経験をもっとよく知るのは被害者自身であり、被害者が主導権を取るべきである。
- コミュニティーのリーダーとしての職業的役割を忘れない。

DVRPへ連絡を

家庭内暴力は法律に反することを忘れないでください。アジア／太平洋諸国系のコミュニティは独特の問題を抱えていますが、虐待されてもよい人間は誰一人として存在しないことを心に

留めて下さい。たとえ被害者が不法滞在者であったとしても、助けを得ることはできるので
す。お住いの地域で利用可能なサービスを知りたい場合は、DVRPに連絡し、ケースマネー
ジャーにお尋ねください。

